

もも栽培情報 第2号

令和8年3月12日
J A アルプス
富山県富山農林振興センター

1 概況

園芸研究所果樹研究センター（魚津市）では、「あかつき」の開花始め（2～3割開花した日）を4月8～9日（R7：4月7日、R6：4月7日、R5：3月30日、平年値4月9日）と予想しています（3月12日現在）。開花情報の最新情報は、「富山県農林水産総合技術センター園芸研究所」のホームページ（下記QRコード）で確認してください。

なお、3月5日に気象台から発表された1か月予報では、向こう1ヶ月の気温は、平年並または高い確率ともに40%となっています。

開花時期が、現時点での予測より早くなることも想定して、病害虫防除・摘蕾等の作業を計画的に進めてください。



果樹開花情報
ホームページ

2 病害虫防除

下表を参考に防除を実施してください。なお、今後の気温等により開花時期が前後する可能性もあるので、散布時期は生育に合わせて調整してください。

結実樹

（散布量：2回目：300L/10a、3回目以降：350L/10a ※1）

回	時期	対象病害虫	使用農薬	希釈倍率	100L 当たり 必要薬剤量
2 (せん孔細菌病の 重点防除)	4月上旬 (開花直前)	せん孔細菌病	ICボルドー412 ※2	50倍	2 L
3	4月中旬 (落花直後、川中島 白桃受粉後)	せん孔細菌病 (展着剤)	アグリマイシン-100 マイリノール	1,500倍 20,000倍	66 mL 5 mL
特散 (コスカシバの発生が 見られる場合)	4月中旬 ～下旬	コスカシバ	ガットサイドS	1.5倍	樹幹、主枝 に塗布
4 ※3	4月下旬	せん孔細菌病 (展着剤)	スターナ水和剤 マイリノール	1,000倍 20,000倍	100 g 5 mL

※1: 未結実樹は、1樹当たり5L以上散布する。

※2: 開花後のICボルドーの散布は、受粉への影響が懸念されるので、遅れないように散布する。

※3: 未結実樹は、散布しなくてもよい。

【性フェロモン剤「コンフューザーMM」の設置】

「コンフューザーMM」を設置する場合は、下記の事項を参考に実施してください。

- ・設置本数：100本/10a
- ・設置時期：5月初旬
- ・適用害虫：ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモハモグリガ、リンゴコカクモンハマキ
- ・注意点：①目どおりの高さに設置する。
②ほ場の外周を多めに設置する。
③なるべく葉陰など、直射日光に当たらない場所に設置する。

- 農薬散布の際は、濃度や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。
- 周辺の他の作物や住宅等に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。

3 今後の管理

(1) 新芽の管理 (幼木・若木)

- ・主枝先端部分の新芽は、枝の背面(×印)の芽をかき取る(写真1)。なお、芽が背面しか無い場合は、背面の芽を残す。
- ・主枝候補枝の基部や太い側枝の背面から出ている新芽は、太い新梢になり、主枝候補枝の先端を弱らせる恐れがあるので除去する(写真2)。



写真1 主枝先端部分の新芽の管理
(枝の背面(×印)の芽をかき取る)

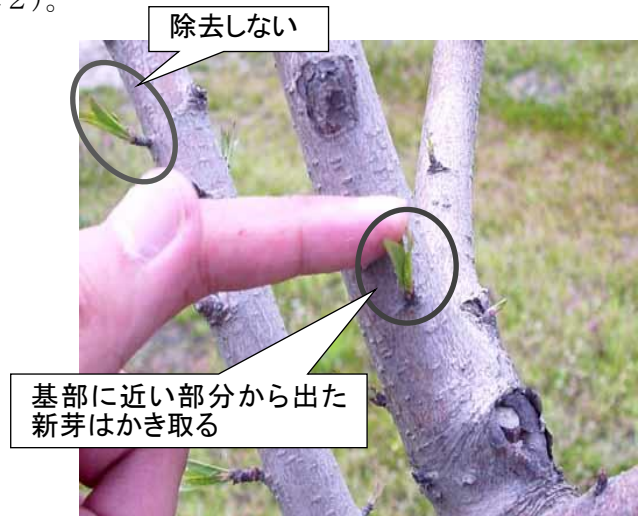


写真2 主枝候補枝の基部や太い側枝の背面から出ている新芽の管理

(2) せん孔細菌病対策 (春型病斑の摘除)

- ・発芽せずに枯れている枝(写真3)は、せん孔細菌病の病原細菌が皮部組織内で越冬している可能性があるため、作業中に見つけた場合は、すぐに切除し、ほ場外に持ち出し適正に処分する。



写真3 せん孔細菌病の春型病斑
(紫褐色～紫黒色の病斑)

(3) 摘蕾

- ・摘果作業を効率よく進めるため、開花前までに行う(詳細は第1号参照)。

4 人工授粉

- ・花粉が多い品種(「あかつき」、「なつっこ」等)は、訪花昆虫や風などにより容易に受粉・結実するが、花粉が無い品種(「川中島白桃」等)は、結実が難しいので、人工授粉を行う。
- ・人工授粉は、梵天や毛ばたき等を利用し、花粉のある品種(「あかつき」、「よしひめ」、「まさひめ」等)の花をなぞった後、花粉のない品種の花をなぞって受粉させる。
- ・開花率50%の頃と80%の頃の最低2回、花が乾いている状態で行う。

●3月1日～5月31日は、令和8年春の農作業安全運動実施期間です！
農作業中に「ヒヤリ」とした経験はないですか？
農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底しましょう。